スクールソーシャルワーク実践における評価に関する研究
－プログラム理論に基づいて－

○　大阪府立大学　　山野　則子（3203）
厨子　健一（大阪府立大学後期博士課程・7689）
周防　美智子（帝塚山大学・6723）
山口　倫子（神戸親和女子大学・7094）

キーワード：プログラム理論，プロセス理論，インパクト理論

１．研 究 目 的

文科省によるスクールソーシャルワーク（ＳＳＷ）活用事業が始まって 3 年経ったが、ワーカーの数は全国で 552 名（2009 年度）であり、社会福祉専門職とは限らないという、まだ社会福祉として展開させることができるかどうか不安定な段階であるといえる。例えば震災の緊急支援にスクールカウンセラー緊急派遣は予算化され、すでに多数実行されているが、スクールソーシャルワーカーに関しては、このカウンセラー派遣事業に含まれ、４県 30 人の申請だったという。そのようななかで、今まで報告者たちは、SSW 実践プロセスをそこに登場するステイクホルダー（Unrau et al2007）とともに明示化し（赤尾・山野・厨子 2011；厨子・山野 近刊）、普及活動のためのハンドブックを作成し一定発信してきた（山野・厨子 2010；2011）。もちろんまだ実践の明示化が十分であるとは言えないが、さらに、ソーシャルワーク実践としての評価方法を明らかにし、ソーシャルワークとしての実践の確立をめざすことが課題と考える。

そこで、プログラム理論（Rossi，P．H．ほか）を援用して、スクールソーシャルワークのプログラムの明示化、評価方法の構築を目的に取り組んできた。本報告では、①インパクト理論である、測定可能なプログラムゴールの設定とアウトカム指標の提示、②プロセス理論である、アウトカムを導く実践行為を明らかにする。そして、効果的なモデルに発展させる方法について、プログラム理論の検討や考察を行い、またプログラム評価の果たす役割について議論を展開したい。

２．研究の視点および方法

SSW 実践において、予算化され全国展開されてからの歴史が浅いことから、SSW 実践の展開と拡充に重要となる連携に関するプログラムと特徴的・効果的な手法を活用しているプログラムに着目して、先駆的に文科省の事業開始前から導入している自治体を文部科学省報告書や学会報告などを参考に選定した。それぞれの自治体でまずワーカーに、その後、教育行政担当者に、どのように作成してきたのかについてインタビュー調査を実施した。対象としたのは、６自治体である。

研究の視点は、『プログラム評価の理論と方法』（Rossi，P．H．ほか）におけるプログラム理論を援用したが、プログラム理論に依拠することで、”Evaluation in Social Work″におけるプロセス評価、アウトカム評価を系統的に行えると考えたからである。

分析方法は、集まったインタビューデータを文字起こしし、そのデータを研究員メンバーで確認し、上記、プログラム理論に基づき、KJ 法的に、それぞれのプログラムの確立するプロセスに重要な要素を模造紙にプロットし、明示していった。各プログラムにおいてその作業を行い、1 回きりではなく、複数回に渡る見直し作業を行った。インパクト理論についても同時並行して同じ手順で作成した。

３．倫理的配慮

研究の趣旨、結果の活用や報告、プライバシーの保護についての配慮を説明し、テープやメモの使用の許可を得て、実施した。場所についても守秘性の高い面接室を活用するなど配慮を行った。また、本研究は、大阪府立大学研究倫理委員会の承認を得て実施した。

４．研 究 結 果

まずワーカーだけのインタビューから、連携プログラム、効果的手法活用プログラムを明らかにしてきた。そのうちの連携に焦点をあてた結果についてすでに発表してきた。本報告では、自治体行政の担当者へのインタビューも含めて、包括的にプログラム理論を提示する。

今回の調査から、明らかになったこと、その意義を４点あげる。まず第１点は、様々な登場人物が存在し、ワーカーを含む「プログラム」の組織をどのように設定するか、という課題が明らかになった。第２点は、今までまだ明確にスクールソーシャルワークのゴールやそこに至るプロセスが提示されていなかったが、今回の調査によって、連携やソーシャルワーカーが活用する手法によって何が変化していくのか、さらに近位の変化から明示したことはワーカーがあわてずにゴール設定できる可能性があり、意義がある。第３点は、このように見せていくことでまだまだ理解されない学校現場でのスクールソーシャルワークの理解を進めることができる可能性があり、ソーシャルワーク評価につなぐことができるであろう。第４点は、明らかにしてきたプロセス理論、インパクト理論を元に評価方法の検討や評価マニュアル作成に一歩進むことができると考える。

参考文献

赤尾清子・山野則子・厨子健一（2011）「スクールソーシャルワーク実践に関する実証的研究－教師と家庭のつなぎなおしプロセス－」『子ども家庭福祉学』10，59-68.

Rossi，P. H.，Lipsey，M. W.，& Freeman，H. E.（2004）*Evaluation : A Systematic Approach*（7th ed.）. London and New Delhi : Sage Publications.（＝2005，大島巌・平岡公一・森俊夫・元永拓郎〔監訳〕『プログラム評価の理論と方法－システマティックな対人サービス・政策評価の実践ガイド』日本評論社.）

Unrau，Y. A.，Gabor，P. A.，& Grinnell，Jr，R. M.（2007）. *Evaluation in Social Work*（4th ed.）. New York : Oxford University Press.

厨子健一・山野則子（近刊）「スクールソーシャルワーカーの実践プロセスに影響を与える要因－当事者に問題意識がない領域に関わるスクールソーシャルワーカーに着目して－」『社会福祉学』.